



人権・同和教育だより＊卒業式編

平成28年3月2日

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

先月15日に三浦成人さんに、「生きるということ」と題して講演していただきました。今、そこで起こっているように、目に見えるような三浦さんの語り口に、みなさんは色々なことを考え、時に涙を抑えられなかったのではないのでしょうか？みなさんの感想からは、これから社会で差別に出会った時の自分のあり方、他者への接し方についてもしっかり考えてくれたことが窺え、3年間の人権・同和教育の集大成となりました。今回は卒業のはなむけとして、感想特集号を贈ります。

❖ S 3 ❖

- もし差別をしている人に会った時は、絶対にやめるよう言いたい。今回の講演のことを伝えて、みな同じ人間なんだと教えたいと思う。今日はありがとうございました。
- 自分は今まで差別のことで困ったことがなかったのであまり関心がなかったけど、今回の話を聞いて差別について深く考えさせられた。
- 今まで色々な人権同和教育をうけてきたが、今回の講演は一番心に残った。自分の体験談を話す姿や、自分の過去を思い出し涙する三浦さんを見てぐっときました。そして差別されてきた人たちを助けてあげたいと思った。
- もし社会に出てから差別をするような人に出会ったら、それは違うと言えるような人になりたい。
- 今まで差別について勉強してきたけど、そこまで重要なことではないと思っていた。今回差別を実際に受けた時の話を初めて聞き、差別がどれだけ苦しいことなのか分かった。

❖ E 3 ❖

- とても生々しく、自分があたり前に過ごしている日常生活が、差別を受けている人にはあたり前ではないことを痛感した。
- 日本人は、悪い方向であっても同調意識が働いてみな同じ方向に向かう傾向があるので、こういう話を聞いた人がどんどん増えて、良い方向へ進んで行けたらよりよい社会になると思った。
- 差別する人とされる人の、その時の感情や気持ちが伝わってきた。差別に対して本気で怒れる人間になりたい。
- 講演を聞くのは二度目だったが、実体験にもとづいた話はとてもおそろしいと感じた。同じように生きている人を人と扱わない行為は信じられない。
- 三浦さんのおばあちゃんのように、差別によって学ぶことができなかった人がいるんだと知った。
- 字が読めなくても書けなくても、三浦さんをほめて支えてくれたおばあちゃんのような、そんな人になりたい。
- 「**文字や言葉は人を傷つけるためにあるのではない。**」が心に響いた。
- 差別していることを知らないで差別する人がいることに驚いた。その場面に遭遇したら、注意するだけでなく、その行為が差別だと教えてあげたい。
- 中学や高校の同和問題の授業では、どうして差別が生まれたのか、なぜ終わらないのかなどを学んできた。今回実際に体験した人の話を聞いて、とても心が痛んだけど、今でも差別に苦しんでいる人に出会ったら、話を聞き、助けになりたい。
- 社会や就職先で差別に直面した時は、勇気を出してダメなことはダメと言える人間になりたい。

ちなみに私の心に最も響いた言葉は、
「言葉は人を傷つけるためにあるのではない」
です。1,2年生にもぜひ伝えていきたいと思ひます。



❖ A 3 ❖

- 「自分らしく生きる」という言葉が心に響いた。人に合わせることも大事だが、人に流される人生ではおもしろくない。「自分らしく」をベースに、人とうまくつきあっていきたい。
- 「言葉や行動は人を喜ばせるためにあるもので、人をばかにするものではない」という言葉は心にとても響いた。僕は卒業したら接客業に就くので、どんな人にも丁寧に接していきたい。平等な立場に立ち、優しい心、強い心を持っていきたい。
- 私は小、中といじめられていたが、中3で自分も一緒にいじめられてもいいから、と言って仲良くしてくれる友達に出会った。今日の話聞いて、こういう友達を大切にしようと思った。差別されている人に会っても逃げたりせず、この友達のように助けてあげられるようになりたい。
- 成人さんの話は中学校の時にも聞いたので、おばあちゃんの弁当の話はよく覚えていた。聞く度に何ともいえない気持ちになります。正直、差別はダメと口にするのはなかなかできませんが、せめて絶対にしないという気持ちだけは持とうと思った。
- これまで差別についてたくさん学んできたつもりでしたが、実際に差別を受けた方の話を聞くと、自分はまだ甘かったなと思った。これから自分らしく前を向いて生きていきたい。そして人に「ありがとう」や感謝の気持ちを相手にきちんと伝えていきたい。

❖ G 3 ❖

- 人間はとても弱く、愚かなものだ。弱いゆえに大人数で行い、弱いゆえに差別を怖れ加担する。私は差別されたことがある。本日の講演はとても胸に響き、何が人間として大切なものなのか気づかせてくれた。私は優しく強い心を持ち、人生を捨ててでも差別されている人を助けたい。
- 小学生の頃から部落差別について勉強してきたが、自分に何ができるか答えは見つからないでいた。高校卒業前のこの時期に聞き、やっと分かった気がした。どこで生まれたか、暮らしているかは関係なく、人間はみんな人間なんだということをきちんと理解することが一番大切なのだと思った。
- 今まで勉強してきたが、何があったのか、どんな扱いを受けてきたのか資料でしか知らず、実際どうなのか知らなかった。祖母の心の強さ、厳しさ、孫を想う優しさに涙腺が緩んだ。
- 誰か一人でも自分のことを理解して寄り添ってくれる人がいるだけで、自分の存在価値や安心感につながってくると思う。今まではどこか現実味のない話だったが、差別について真剣に考えることができた。
- 生きることが当たり前じゃなくて、毎日が来るのが幸せなことだと思う。これからも1日1日を大切に過ごしていけるように心がけたい。差別は身近にあり、この知識を持っている私が正しいことをしていきたい。



♠♠この時の気持ちを忘れないでください。そしてこれから先どうしたらよいか分からない時には、「こういう生き方や考え方があったんだ」、「高校生のときはこんなことを考えていたんだ」と思い出してほしいと思います。きっと窮地を打開するヒントになると思います。そして困ったときは、母校に相談することも考えてみてくださいね。

卒業アルバムにでもはさんでおいてください。お元気で。(有)♠